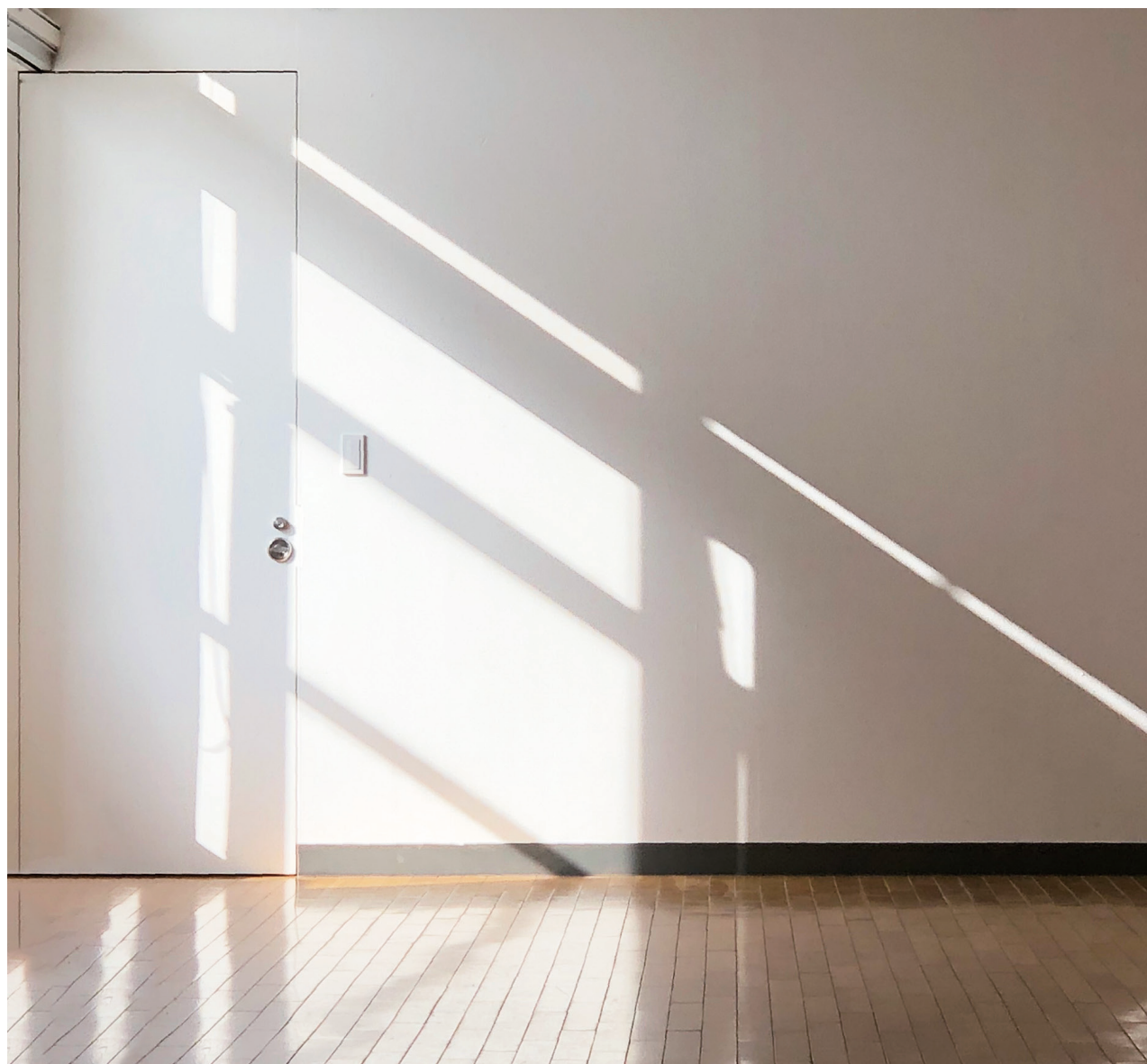


IDDNewsletter3

2021 March



特集

学生から見たデザインの学び ～修了式での答辞から～

専攻科情報デザイン科「学科だより」では、これまでも情報デザイン科での取組について紹介させていただきましたが、学生からの意見や考え方というのは、あまり取り上げてきませんでした。

3月1日に執り行われた修了式において、今年度の修了生が読んだ答辞が情報デザイン科の教育の方向性を明瞭に説明されているテキストになっておりましたので、今年度、最後の「学科だより」にて紹介させていただきたいと思います。

学生から見たデザインの学び ～修了式での答辞から～

専攻科情報デザイン科「学科だより」では、これまでも情報デザイン科での取組について紹介させていただきましたが、学生からの意見や考え方というのは、あまり取り上げてきませんでした。

3月1日に執り行われた修了式において、今年度の修了生が読んだ答辞が情報デザイン科の教育の方向性を明瞭に説明されているテキストになっておりましたので、今年度、最後の「学科だより」にて紹介させていただきたいと思います。

答 辞

肌寒い風が吹きつつも、暖かい日差しが照らす今日。私たちのために修了式を挙げていただきますことに修了生一同、心より、感謝申し上げます。

私たちは、今日、北海道高等専門学校専攻科情報デザイン科の課程を修了します。

校長先生をはじめ、御来賓の皆様から、励ましのお言葉をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

専攻科情報デザイン科での2年間の学びでは、デザインに関わる専門的な知識・技術だけではなく、学び方そのものに係る日本語の構造やそれを背景とした社会の在り方などについても教えていただきました。

私は、はじめ「構造」というものがどういうものなのか、話を聞いていてもよく分かりませんでした。専攻科情報デザイン科での学びにおいて、構造というものに初めて触れ、それは、いわば自分と世界との繋がり方のこと、つまり、哲学的な思考そのものに近いものなのではないかと思うようになりました。専攻科で学んだことは、日本語における文法とその意味の構造ですが、言語が何であれ、構造というものは、全ての言語において絶対的なものであると私は思います。表したい内容の構成は、構造に依存するものであり、言語的な文法上の制約という一定の枠組みなしに何もないうところから内容を生むことは極めて難しいことだからです。

日本の聴者が使う日本語に構造があるように、私たち日本のろう者が使う手話にも構造があります。言語間の構造の形式の違いを理解し、その使いこなし方を知ることが「自分の言葉で表す」ことであり、「学びを深める」ことなのではないでしょうか。

それぞれの言語には文法上の違いがあり、また意味の構造も細かい違いがありますが、意味のシステムは本質的に上位概念と下位概念に分かれます。その上位概念に自分なりに得た新たな属性を加え、意味を膨らましていくことが要素を拡張させることとなり、ひいては自分が認識できる世界が広がることに繋がっていくのだろろと思います。

加えて、この世界は因果関係に重点が置かれていると教わりました。私たちは、学校という閉じられた空間から、これから社会へと出ていくことになるわけですが、要素同士の因果関係を説明できる力がなければ、社会的信頼を得ることはできないと思います。

グラフィックデザインを例にとれば、「なんとなく見栄えがいいから配置しました」という説明と、「Bをここに置いておくことで、Aがより目立ち、AとBの関係性を感じさせることができる」という説明のどちらが他者を納得させられるかは言うまでもないでしょう。

つまり、自分だけが意味内容を分かっていたらいいのではなく、自分の中にある思考そのものが他者にも伝わり、分かってもらうように再構築する力が因果関係なのであり、それが





構造を説明する力に繋がるということです。

私は、まだ構造とは何なのかを全て把握していません。ただ、今の段階でも確実に言えるのは、これから社会に出て様々な人と関わる上で、現在、目に入ってくるものをそのままなぞるのではなく、背景にある不可視なものをどう説明すれば通じるのか、そしてどう構築したら構造として整理されたものになるのかを常によく考えていきたいということです。そして、有為な日本人として、日本という国の枠組みにおいて、しっかり役割を果たしていけるよう、努力を積み重ねていき

たいと思います。

最後になりますが、北海道高等聾学校の益々の御発展と本日御列席の皆様がこれからも御健勝で御活躍されますことをお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和3年3月1日

令和2年度修了生

専攻科情報デザイン科2年 越 湖 宝

IDDN

◎修了作品展を開催いたしました

令和3年2月25日木曜日から28日日曜日まで、市立小樽美術館市民ギャラリーにおいて「令和2年度北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科修了作品展」が行われました。

今年度は、グラフィックデザインやイラストレーション、インスタレーションを中心に展示を行いました。

4日間で、67人のお客様においでいただきました。誠にありがとうございました。

IDDN



Contents

特集

学生から見たデザインの学び ～修了式での答辞から～

2-3

専攻科情報デザイン科「学科だより」では、これまでも情報デザイン科での取組について紹介していただきましたが、学生からの意見や考え方というのは、あまり取り上げてきませんでした。

3月1日に執り行われた修了式において、今年度の修了生が読んだ答辞が情報デザイン科の教育の方向性を明瞭に説明されているテキストになっておりましたので、今年度、最後の「学科だより」にて紹介させていただきたいと思います。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」
をお読みいただきありがとうございます。

今年度も皆様方のおかげで、修了生も無事巣立ち、年度
末を迎えることができました。

また、「学科だより」も、なんとか各月毎に発行すること
ができました。皆様方に温かく見守っていただきましたお
かげです。改めてお礼申し上げます。

情報デザイン科ではデザインの専門的で実践的な知識と
技術を身に付けさせ、社会で活躍できる人材を育成するべ
く、これからも、スタッフ一同、力を合わせて指導して参
ります。

次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

March 2021 3

IDDNewsletter

March 2021

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。

